

令和5年度（2023年度）第5回南区まちづくり懇話会 会議録（要旨）

1 日時 令和6年（2024年）2月21日（火）午前9時30分～11時00分

2 場所 南区役所 3階多目的ホール

3 出席者 計34名（出席者名簿のとおり）

・南区まちづくり懇話会委員 15名

柴田委員（会長）、正木委員（副会長）

大川委員、西村委員、澤田委員、宮本委員、立岡委員、北野委員、福田委員

中村委員、牛嶋委員、松永委員、ジェリフ委員、楠村委員、高橋委員

・事務局（熊本市職員） 19名

南区長、区民部長、保健福祉部長、南区管内まちづくりセンター所長（6名）、

区民課長、土木センター所長、福祉課長、保護課長、保健こども課長、

総務企画課長、総務企画課職員（4名）

4 内容

（1）開会

（2）区長挨拶

（3）議題

・令和5・6年度南区まちづくりの取組

（4）報告

・南区視察を終えてのご意見・ご感想

・南区サロンの開催状況報告

（5）その他

（6）閉会

5 意見交換議事録

令和5年度南区まちづくり推進事業実績報告 **資料1-1**、令和6年度南区まちづくり
の取組（案） **資料1-2**

<資料1-1について 事務局から説明>

（柴田会長）

年度当初の委員就任時に、令和5年度の事業説明をいただいて、それを踏まえて今年度やってきた。この中に継続のものが結構あったが、来年度も行うものもあったりする。来年度につながるようなご意見・ご質問をいただきたい。

（牛嶋委員）

南区キャラクターのグラフィックサイン（止まれのシート）は非常にいい。川尻校区でも設置要望を行った。横断歩道は白と青色で先日きれいになったが、とても欲しかったこのマークがない。予算の関係で設置してないのか。

（事務局）

このグラフィックサインは今年度完成する予定だが、予算の関係で来年度に入って川尻小学校前への設置を考えている。

（牛嶋委員）

ご説明いただいたように、4月頃設置ということを地元にも説明していただきたい。

（柴田会長）

今の点はとても重要なことで、工事に限らずいろんなことを常に地元の方へ周知していただきたい。

（正木委員）

飽田地区防災計画作成のワークショップに参加したが、津波・高潮警報についての計画が地元全体に伝わるには時間がかかると思う。参加した方は詳しくなるが、参加しない方もいるので、定期的を開催していただきたい。

（柴田会長）

ワークショップは具体的にどんなことをされたのか。

（事務局）

飽田地区3校区で、校区ごとにワークショップを開催した。1回目は皆さんが感じられている防災に関する課題の洗い出しを行った。2回目は課題解決のために地域として、行政も含めて、こういった行動をすれば解決に向かえるか話し合った。今後、この課題と行動計画をまとめた地区防災計画を作成し地域への配付を予定している。

（柴田会長）

主にそれは、津波・高潮対策ということか。また、地区防災計画は来年度作成して、住民の方に配付するのか。

（事務局）

今回が南区の沿岸部の天明・飽田地域なので、津波・高潮対策として行っている。また、この地区防災計画は今年度中の配付を予定している。

（柴田会長）

ぜひそれをお願いしたい。また、この事業は継続事業ではないのか。

（事務局）

沿岸部の津波・高潮対策を目的として始めた事業なので、天明と飽田が完了した時点で一旦終了する。今後、富合・城南等の地区防災計画も考えなくてはいけないと思っている。

（柴田会長）

ぜひ内陸、特に河川になると思うがそれもご検討いただきたい。

（北野委員）

ワークショップに参加して、地域がまとまるためには地域のコミュニケーションをとらなければいけないという話があった。地域がいい方向に向かっていたので、ぜひ事業として続けていただきたい。

（柴田会長）

計画はつくって終わりではなくて、次にそれをどう使うかがとても重要で、避難訓練とかにもつなげていかなければならない。そういったことにつながっていくのか。

（区長）

この計画はまちづくり予算で一旦今年作成して終了となるが、日頃からの防災対策は地区ごとに条件が違うので、それぞれで進められる。

防災事業に終わりはなく、住民の意識を上げていくことは常々やっていく。来年度のまちづくり事業ではまちづくりセンターを中心に引き続き全体で考えていく。

（柴田会長）

まちづくりセンターから地域にお話がある可能性もあるが、ぜひ地元の校区自治協議会とか、防災組織等からも声を上げていただきたい。

（西村委員）

国土交通省と地域流水の防災について、情報的に重なり合うものが多い。ハードルが高いと思うが、防災に関して国と市の共用・共有がどこかでできたらいい。熊本市のハザードマップも国交省もちゃんとできているが、できれば情報共有をより一層図っていただきたい。

（事務局）

国等との連携、情報の共有というお話があって、その共用で言うと、校区単位・町内単位の集まりに行って、南区のハザードや災害の話など基本的には防災教育を進めている。また、国等の河川の整備等の話は、情報を集めて地域の方に共有、講義・講演をしている。国交省にもどういった事業をされているか聞き取り、やってない部分をやるとか、共同、共有できるような取組や国交省、県土木等との連絡会議等も開催し情報の共有を図っている。

(柴田会長)

ぜひ地域の方々との実質的な取組につなげていただきたい。

(澤田委員)

昨年度は、各校区でまちづくりセンター等と連携しながら、実際に避難する南部まちセンと城南小学校2か所に分かれて避難訓練を行った。地域に回覧して、実際にどういう行動になるのか熊本地震の経験を思い出しながら、お年寄りの方も参加されて、防災士の話を聞いて、コミュニティでの訓練はいい経験になった。

(柴田会長)

とても参考になった。これはどちらの主催なのか。

(区長)

市の防災訓練に合わせて、城南校区は町内挙げて大規模に行っていただいて、本格的な訓練をしていただいている。南区内は旧城南町3校区でも大規模に行われている。それぞれの事情に応じて、こういう機会をとらえていただくのは大変ありがたい。

(柴田会長)

ぜひそういった動きが、もっと広がっていくような取組をしていただきたい。

(牛嶋委員)

子どもたちを守る、地域を守るためには、安全協会や防犯協会が必要。川尻校区は青色回転灯パトカーをつくって5年になるが、子どもたちも完全に親しんでくれている。警察のパトカーみたいに白黒にして、回転灯だけは青色にするのが全国的な流れで事件の多い東京、大阪では、行政がパトカーをつくって、各校区に貸出している。もしよかったら、南区で1台作って各校区に貸し出していただきたい。

(区長)

防犯パトロールの集まりで南署に行くと、川尻校区が一段と目立っていて、非常に分かりやすい。この防犯に関しては、防犯協会も含めて、市本体で考えていきたい。川尻校区から再三、お話をいただいているので、関係局にモデルケースでつくれないかという話はしたい。確かに、パトロールしているのがはっきり分かるので、非常に効果的で、大都市部には実際あるので、指定都市、熊本市として考えていきたい。

(松永委員)

Team 城南ワンダホーの取組として、城南町産のバニラビーンズを使って、町おこしの商品をつくろうということで、バニラプリンシェイクやバニラティーとか、城南町産の蓮根を織り交ぜてつくるパン de れんこんなどいろいろ思考錯誤している。

それと夏まつりは4年ぶりに開催して、人が多く集まり過ぎて、逆にうれしい問題が発生した。また、あきげしき幻灯祭は下田のイチョウをライトアップして、これも人

が多く集まった。最後に、婚活イベントをバスツアーで今回初めて一日かけて、宇土市にある大太鼓収蔵館で太鼓をたたくイベント等を行って、カップル7組が成立した。

(柴田会長)

各まちづくりセンターも様々な取組をされているので、その辺も含めてご意見いただきたい。また、令和5年度の報告と連動して、令和6年度のまちづくりの取組案のご説明をお願いしたい。

<資料1-2について 事務局から説明>

(柴田会長)

大きな方向性の変更は難しい可能性もあるが、こういう形で取り組んだらどうかという提案はできると思うので、よりよくなるような形でご意見をいただきたい。そしてその際、今年度の取組の実績も踏まえて、ご意見をいただけるとありがたい。

(正木委員)

熊本城マラソンの際、川尻地区でのぼり旗を立てられたが、南区内を走られる距離が長い。沿道の応援がない田畑は殺風景なので、道に沿って菜の花を植えるなど、予算が余りかからないものを田畑を活用して協力できたら評判がよくなると思う。

(区長)

コースを見て寂しいところは実際ある。今年は南部まちセンでのぼり旗をつくり、蔵前通りの沿道に立てた。また、飽田・天明は盛大に応援していただいている。ただ何かを植えたりとかは、地権者の承諾などあるので研究させていただきたい。地域の方のご支援をいただきながら、追加できるものがあればと思っている。

(ジェリフ委員)

地域の特性・課題に応じたまちづくりがカテゴリーとしてあって、二つ以外は地域ごとの事業だと思うが、地域でこの事業をしようというのはどのように決められたのか。また、ICT講座事業は、以前は全体的にされていたが富合だけになったのはなぜか。

(区長)

来年度はまちづくりセンターそれぞれの地域で求められているものや盛り上げられるようなものを提案して事業化しようというもので、富合だと六殿宮にある木原神楽、幸田はボッチャ、天明がモルック、いわゆる子どもから高齢者の方々まで親しめるスポーツということで行っている。

また、ICT講座が目立つが全市的に行っていて非常に定着してきている。要望が多かった富合だけが行っているイメージだが、実際は公民館講座と重複している。

この事業は実情を押さえているまちづくりセンターからの提案・企画になっている。

（北野委員）

コロナ禍以前に、飽田西校区子育て支援ネットワークを立ち上げた。子どもたちをいろんなテーブルの真ん中において、子どもたちを地域で育てていこうという取組を狙っている。助成金をいただいて運営しているが、来年度助成金が足りない状態が見えてきたので、今後やっていきたい団体に対して、少しずつでもいいので、スタートアップのための助成をお願いしたい。

（事務局）

南区管内には子育て支援ネットワークは、21校区全てにあって、15の地区ネットワークがある。助成金のお話があったが、熊本市南区地域コミュニティづくり支援補助金、こちらの制度の補助対象団体に該当するものと考えている。

（柴田会長）

ぜひこの補助金をご活用くださいとのことだが、この子育て支援ネットワーク支援事業は、新規事業で具体的にどんなことをされるのか。

（事務局）

子育てネットワークに対して、関係機関及び支援者を対象とした研修等で活性化支援、それに加えて、親子での参加型のイベント等の支援を考えている。今、15のネットワークがあるので、単年度事業ではなく、3年をめでに全ての団体で行っていききたい。

（中村委員）

新規の南区防災バスツアーは、熊本地震の経験と記憶風化を防ぐことで、防災減災意識の向上を図るためにバスツアーを開催したいとあるが、日本の状況を見ても、地震・津波・高潮以外に、毎年、洪水の害がとて多く、南区においても緑川やいろんな水路があって、洪水の害をとて懸念される方が多い。熊本地震での被害だけではなく緑川もかなり堤防を分厚く、かさ上げ工事をされて補強されている。単に怖さだけを助長するのではなく、防災について考えるバスツアーにしていきたい。

台風、洪水がよく起こる梅雨前に一度開催していただき、みんなが考えて行動できるようになればいいと思うが、開催時期はいつを考えておられるのか。

（事務局）

開催時期は、親子に参加していただきたいため夏休み中を検討しているが、ただいまのご意見を踏まえて、来年度のバスツアーの時期は検討させていただきたい。

また、バスツアーは地震だけをお話しするわけではなく、防災士にバスガイドをしていただいて、地震だけでなく、洪水・津波、もしくは避難所の疑似体験、防災食の体験とか、防災全般のことを広く学んでいただけるような事業にしていきたい。

（柴田会長）

1回の開催で1度に大人数で行くよりも、少人数で何回か行ったほうが効果は上がる

のではないかという気もした。要は行きたいけど行けないとか、タイミングもあったりするので、ぜひご検討いただきたい。

（事務局）

バスを2台チャーターする予定なので、開催時期を分けるなど検討していきたい。

（楠村委員）

ノベルティグッズ製作について、先日、LINE スタンプをつくったという記事を拝見したが有料だった。もしキャンペーンをして、例えば、この期間に区とかに貢献したら、無料になったりするのか。

（事務局）

来年度予算を考える中で、例えばイベントに来ていただいた方の中から、熊本市公式LINEの登録をしていただいた方に南区スタンプをプレゼントするなどを今のところ考えている。単なる無料キャンペーンは考えてないが、ご意見をお伺いして、今後検討していきたい。

（柴田会長）

いろいろなイベントなり事業があるので、そういった方というのはいくらもある話かなというふうに思う。ぜひご検討いただきたい。

（宮本委員）

終末期医療に関する啓発事業は、昨年度までで4回、開催されていて、次年度も開催で動いている。毎年多くの方々にご参加いただけるようになってきていて、対象者の方々に参加されてどうでしたか、ご家族とお話しなさいましたかというようなアンケート調査をさせていただいてる。なかなか皆さん記憶に残らない。そのときはすごくよかったと思うが、実際できてない。今から次年度計画を練っていくが、今後も継続していく事業で考えていただいているので、ぜひ、ご近所の方とかご自身も含めて、一度参加していただくとか、講師の先生方のお話を聞いていただいて、熊本市以外でも講義とかもされている状況なので、我が事として捉えていただきたい。最後に、南区で私の思い手帳が独自につくられているので、ぜひ多くの方々の目に触れる機会として捉えていただきたい。

（柴田会長）

今の話に限らず、行った瞬間はやる気になるがすぐ忘れる。そこはいろんな観点で重要なところ、難しいところかと思うので、ぜひご支援を含めてよろしくお願いしたい。

（福田委員）

小学校・中学校とも不登校の生徒児童が非常に多いという報告が上がっている。その中で夜遅くまでテレビゲームをしている子どもたちが朝起きれない。だからこのeス

スポーツによる健康まちづくり事業は、テレビゲームだったり、パソコンのゲームだったりするので、そういう子どもたちも一緒に絡めて、高齢者の方にeスポーツ、テレビゲームのやり方を教えるという機会だったり、世代間をなくして年齢関係なく交流できる場にしていただきたい。

（事務局）

多世代交流と様々な方々との連携を考えているので、ご意見を踏まえて、いろんな方の元気につながるように進めていきたい。

（柴田会長）

高齢者が主なターゲットと考えられているのか。

（事務局）

天明地域が高齢化率40%を超えているので、ささえりあ天明に寄せられたeスポーツをしたいとのご意見をもとに着手する事業になっている。

（柴田会長）

ボッチャ、モルック、eスポーツ、この三つとも多世代交流が重要な部分だと思うので、その辺りも念頭に置いて進めていただきたい。

（立岡委員）

津波・高潮地域防災計画作成事業で、ワークショップに参加させていただいた。付箋での意見出しとか、広用紙にまとめていく作業とか、話の展開の仕方とか、ファシリテーターの先生がすごくよかったから、すごくいいものになったと感じている。各校区で先生をその都度呼ぶのは難しいと思うので、まちづくりセンター等でファシリテーターの技術を身に付けられて、まずは校区でやっていきながら、ゆくゆくは住民の方でも担っていけるといい。

（柴田会長）

そこは職員含めて重要な点だと思うので、ぜひご検討いただきたい。

（大川委員）

去年のバスツアーで六殿宮に行ったときに、釘は一本も使わないで建っているという子どもの頃の感動を思い出した。今度、この事業を啓発することだったので、20分ぐらいにまとめた映像をCDにして、各小学校にお配りいただいて気軽に学校で利用できると小さい頃の感動は忘れないので、ぜひそういう試みをしていただきたい。

（柴田会長）

木原神楽について、そのつくったものをどう使うのか。

（事務局）

富合は今新興住宅地で、子どもたちが増えてきている。木原神楽を知らない地元の子が増えているので、まずは子どもたちに触れていただきたいという思いで作成を予定している。活用方法は、富合の小学校・中学校2校あるので気軽に授業に使っていただけるとしてお配りすると同時に、各地区の自治会とかにも配布し、アスパルでも常時流せるように活用していきたいと考えていた。南区の各校区にもお配りできれば、すてきなことだと感じたので、検討していきたい。

（高橋委員）

まちづくり推進事業全体に言えることで、目標設定を数値化できるところはしていただきたい。具体的にこの事業をやって、何人ぐらいの参加目標があって、実際これぐらいだったの、このPDCAを回すという意味でも継続していい事業なのかどうか、もっと拡充しなくてはいけないのかの判断が、この資料だけ見ると分からないところもある。ぜひ、令和6年度の事業は、数値目標を立てていただいて、その振り返りのときに、その成果を図るためにも全ての事業でアンケートなり、参加者の声だとか、どういう効果があったのか、具体的に分かるようにしていただければ、また次の事業にもつながっていくと思う。

また、例えば防災のこととか、研修をやったときは、まだ熱があって、勉強しようという意欲があるけど、それから少し期間を置くと、なかなかその気持ちが薄らいでしまうこともある。例えば熊本市の公式LINEなどを通して、反復で送付してもいいと思う。毎日この時間に熊本市から防災なり、福祉なり、いろんな情報を送付してもらう。興味がないと自分で調べてアクセスしないと思うので、定期的に送付したほうがいいと感じた。

あと、イベント関係の事業が非常に多いので、令和6年度はぜひ、地元の高校生とか大学生とか、今までまちづくりに余り関わってこなかったような層の人たちに対して、スタッフなり、ボランティアのようなことで参加していただく、その動線づくりも工夫して取り組んでいただきたい。高校生がボランティア部をつくって、いろんな町、いろんな事業に、学外活動として出ていくことが最近みられて、ぜひそういう人たちを巻き込んで、その人たちが大人になったときに、まちづくりが自分の生活の一部になるような人材を育成するという観点からも、ぜひお願いしたい。

（柴田会長）

いずれもととても重要なご指摘だったと思う。特に、目標もそうですけど、アンケートの際の評価等をぜひやっていただきたい。次は、先日の区内視察に関するご意見等をまとめていただいたので、こちらの資料説明をお願いします。

南区視察を終えてのご意見 [資料2](#)、南区サロンの開催状況 [資料3](#)

<資料2、3について 事務局から報告>

(柴田会長)

ただいまの報告、特に視察について、ご意見いただきたいがいかがか。

(西村委員)

今年度、天明水の会で天明中学校の生徒と先生その他保護者を塚原歴史民俗資料館に連れていくことが可能になり、先生や子どもたちがこんな近場に資料館があったのかと喜んでいただきながら事業計画を進めている。いろんな助成・補助金を使いながら、各地域の関心事についてお手伝いしていきたい。

(柴田会長)

特に今後という部分でいくと、小学生なども含めてどう伝えていくのが重要だというご意見もたくさんある。また、たからものマップなどと連携していくとか、先ほどのLINEやSNSなど、いろんなやり方はあると思った。

(大川委員)

下田のイチョウと六殿宮を組合せた見学旅行を南区の小学校へ提案してほしい。見学旅行は、何十年か前は、学校では1日かけていたけれども、この頃は授業時数の関係で大変窮屈になってなかなか時間が割けない。それで計画するほうもあまり、学校に手をとらせないような手立てをしなくてはいけないと思った。下田のイチョウはぜひ紅葉を見せたいし、根元あたりの時間の経過を見ると子どもはもう否応なしに歴史を感じ、力強さを感じると思う。ただ行って見るだけではなくて、下でリコーダーでも吹かせたら、いつまでも忘れられない思い出の1ページに残ると思う。子どもの時代に感動を与えたい。

(柴田会長)

近年はなかなか授業の融通がきかなくなってきた。高校生も本当に忙しい。課外授業とかやっていただくことが次世代にはとても重要なと思った。

(松永委員)

あきげしき幻灯祭では、牛乳パックで灯籠をつくってある。ちなみにこの牛乳パックの中はLED。竹灯籠もつくったりするが、牛乳パックの灯籠は、地域の小学校、保育園、幼稚園の子どもたちにつくってもらって、小学校とか中学校で分けて飾っている。近くの屋上から見ると、絵文字になるようにつくったりできる。より親しみやすくもっと盛り上がるように、南区でもやっていただきたい。

(柴田会長)

竹灯籠は若干、小学生にはハードルが高いが、牛乳パックだったら、はさみでつくれる。確かにいいアイデアだと思う。また、視察は知らないところが多くて本当によかった。次につながるご意見もいただいた。ぜひこれを先ほどの事業にも活かしていただき、来年度事業をよりよいものにしていただきたい。

(事務局)

柴田会長、貴重なご意見をいただきありがとうございました。また、委員の皆様におかれましても、長時間にわたり活発なご意見をいただき誠にありがとうございました。これをもちまして、令和5年度第5回南区まちづくり懇話会を終了いたします。